

		No.(1)
至誠中学校区	校番 19	福山市立熊野小学校
最終更新日	2022年(令和4年)2月18日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	主体的に学び合う力
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においても、アイデアを出し合い、「自分で考えて、決めて、行動する」ということを大切にされた教育活動を行っている。 至誠中学校区3校の教育活動が、校区全体に共有化され、地域と共に子どもを育てる環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に挨拶をすることができ規範意識が高いが、自己有用感が低い児童・生徒もいる。 基礎学力の定着や主体的な学習習慣の確立と活用力及び基礎体力に課題がある。 	中学校区として統一した取組等	主体的に課題を発見し、協働して解決することができる子ども <ul style="list-style-type: none"> 授業づくり：めざす子ども像の実現に向けて、各校の授業公開を通して協議し、「子ども主体の学びづくり」の充実を目指す。 小・中学生との交流：小中学校合同行事(絵本の読み聞かせ等)の開催

III 自校

ミッション 確かな学力・豊かな心・健やかな体をもつ児童を育成し、保護者・地域に信頼される学校	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題解決力	コミュニケーション力	粘り強さ
学校教育目標 くじけず まなび のびやかに 元気いっぱい熊野っ子の育成	1・2年	身近な生活体験から、自分の課題に気付いている。	友だちの話をうなずきながら聞き、自分の考えを最後まで伝えている。	自分でやると決めたことやみんなでやると決めたことを最後までやり通している。
現 状 <児童生徒> <ul style="list-style-type: none"> 「主体的に判断し、行動している」の肯定的評価は、90.3%であり、年間で、12.3ポイント増加。「授業で考えることが面白い」の肯定的評価は、82.8%であり、年間で、17.8ポイント増加。引き続き、児童が、自分で考える・決める・選ぶことを大切にされた「子ども主体の学び」づくりを推進する。 「自分には、よいところがある」の肯定的評価は、75.3%であり、年間4ポイント増加。授業や行事等を通して、自己肯定感を高める取組を行う。 <授業> <ul style="list-style-type: none"> 児童が自分たちで授業のゴールや内容を話し合ったことで、授業への意欲を高めることができた。 単元のまとまりの中で、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考える。 	めざす子ども像	3・4年 課題解決の場面において、自己の課題に適した改善策を考えている。	自分の考えと友だちの考えを類似、相違の立場で比べて聞いている。	あきらめずに、挑戦している。
	5・6年 自己課題解決への計画、実践、評価、改善を繰り返している。	友だちの考えに質問やアドバイスをしたり、自分の考えを相手が納得できるように伝えたりして、互いに認め合っている。	自分で目標を立て、主体的に目標達成にむけて行動している。	
	テーマ 生きた知識を生み出す「探究する学び」の創造 ～算数科「データの活用」領域の学びを生かした総合的な学習の時間の充実～	研究 内容等 総合的な学習の時間を中心に、データを収集・分類整理し課題を発見したり、結果を適切に表現したりする活動を通して、自ら課題を解決する児童を育てる。		
	めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 自分で課題を見つけ、課題に向けて取り組んでいる。 疑問に思うことなどを表現し、そこから対話が始まっている。 		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立熊野小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力以評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力以評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	主体的に学ぶ児童の育成	★	継続	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが、主体的に課題を発見し、協働して解決する単元、授業づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間・生活科と算数科「データの活用」領域が関連した「探究する学び」づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「算数で学習したことが、総合や生活科の授業で役に立つと思う」肯定的評価80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価93%であった。①必要な情報を集める②データにまとめる③考察する④新たな課題を発見するという流れの②③は、できている。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ①は、必要な情報が何かを児童と考える場を設定する。④は、新たな疑問ややってみたいことを交流し、探究する学びにつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価92.5%であった。①については、自ら必要な情報を考え、集めることができた。④については、さらにやってみたいことを一人ひとり振り返ることができた。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ①については、集めた情報への理解を深めること④については、一人ひとりの振り返りに加え、対話をするにより、探究する学びの質を高めていく。
				<ul style="list-style-type: none"> 子ども主体の学びについて理論と実践をつなぐ研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「認知のしくみ」をもとに、単元・授業づくりを通して、「子どもがどう学ぶか」や「分かると思えるは別」という視点で協議する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師アンケート「子ども主体の学びに向け、他の教員と対話したり、新しいことに挑戦しようとしていたりしている。」肯定的評価80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価89%であった。子どもたちの具体的な姿を共有しながら授業づくりについて考えた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、子ども主体の学び研修を行い、認知のしくみについての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定評価100%であった。研修を通して、共通の課題を見つけ、その取組を交流することで、同じ目標に向かって考え、実践できた。 	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、職員同士で共通の取組を決め、協議・交流することで、子ども主体の学びについて対話・実践していく。
2	自己実現に向けて未来を切り拓く子どもの育成	★	継続	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分で考える・決める・選ぶことを習慣化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで課題を見つけ、主体的に判断し、行動する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「身の回りから課題を見つけ、自分たちで解決しようとしている」肯定的評価80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価83.7%であった。あいさつや下校の仕方など、児童会が中心となり改善策を考え実行した。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童たちが課題を改善するための方法を考え、実行できるような場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価82.5%であった。児童会と連携し、「くまノート」を活用し、クラスの課題を改善するための取組を考え、実践できた。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 委員会等の活動を仕組み、身の回りから課題を見つけて、生活をよりよくしていく場を設けていく。
				<ul style="list-style-type: none"> ライフスキルの獲得を通して、自己肯定感の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分には、よいところがある」肯定的評価80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価80.7%であった。ライフスキルを中心に、児童同士が、互いのよさを伝えられるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任以外の先生や児童が肯定的な声かけを行う場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価75.6%であった。友達の良いところ見つけを行い、互いに交流できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感の向上を図るために、発達段階に応じたライフスキル教育を継続していく。 						
2	児童・保護者に信頼される学校		継続	<ul style="list-style-type: none"> 迅速な情報共有と計画的な取組を確実に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 協議内容の記録化と全職員へ周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート「わが子は、楽しく学校に通っている。」肯定的評価90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価98%であった。児童の様子から学校へ信頼が保たれているといえる。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有をより強化し、全体で子供に関わる。また、児童の良い所や様子を積極的に保護者に伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価98%であった。コロナ禍においても感染症対策をしながら学校の取組を進めることができた。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 安全、安心で信頼される学校であるために、情報共有や子どもへの関わり方等全職員で意識統一する。
				<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導・保護者対応では、役割を明確にし、解決に向けた方向性を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「学校が楽しい」肯定的評価90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価は91.9%であった。ほとんどの児童は学校が楽しいと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の良いところを評価し自己肯定感を高める取組を行ったり、学びが面白い授業を創造したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価87.2%であった。個々の子どもの状況を丁寧に把握しながら、情報共有と取組の方向性を明確にすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においても活動や学びを工夫し、「分かる・できる」という場面を増やしていく。 						